文京ふるさと歴史館

BUNKYO MUSEUM NEWS

だより

第27号／令和2年8月14日発行

コンダー コンデル コンドルさん 2

江戸切絵図の書込み 4

令和元年度収蔵品展の報告 6

令和元年度のあゆみ 7

資料をご寄贈くださった方々 8

令和2年度の催し 8

「博士銅像除幕式」『コンドル博士遺作集』（館蔵）

コンダー コンデル コンドルさん
－文京ゆかりの“お雇い外国人”の和魂と洋才－

ゆかりの文化人を顕彰する

近代文学の泰斗、夏目漱石、近代日本の文章規範を築いたとされる正岡子規をはじめ、文京区（旧本郷・小石川両区）で生まれた、あるいは亡くなった、もしくは区内に所在する会社や学校に通勤・通学したなどの、何かしらのゆかりを有する文化人が多数います。

こうしたことから本区では、平成 26 年度を皮切りに“文の京ゆかりの文化人顕彰事業”として、その年度内に生没年が周年を迎える文化人をとりあげ、記念講演会などを開催してきたところです。

ゆかりの文化人については、この事業だけではなく、必ずしも周年には拘らず、歴史の表舞台には登らなかった人物を発掘し、顕彰することにも努めて来ました。一例を挙げれば今日のマンガ、アニメーション文化隆盛の礎を築き、裏方として支えた縁の下の力持ち、伝説の編集者・加藤謙一や、開国直後の明治年間にドイツ式医学教育を導入すべく尽力した相良知安、そして学歴社会の嚆矢として帝国大学（現在の東京大学）出身者が権威を奮っていた明治年間の大学界にあって、小学校すら卒業せずに、後に国学院大学や上智大学で教授を務めるに至った立志伝中の人物、鳥居龍蔵などを特別展において紹介してきたところです。[※1]

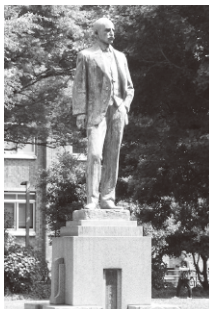
若き建築家の来日

明治年間初期には、科学知識や各種技術の導入を図るべく、明治政府は諸分野において欧米諸国から知識人や技術者を招聘しました。いわゆる“お雇い外国人”と呼ばれる人々です。日本の風土や習慣、日本人と馴染めずに短期間で帰国した人達もいる一方で、日本人女性と結婚した医師、エルウィン・ベルツや、結婚後に日本に帰化した英語教師で小説家の小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）など、日本人、そして日本社会に溶け込んだ人も少なくありません。[※2]

本稿では、後者の一人を紹介します。その人の名は Josiah Conder。ファミリーネームについては、記録では、コンダーやコンデル、あるいはコンドルなどの呼び方が見られます。英語標記に最も近い発音はコンダーですが、一般的には現在、オランダ語の読み、コンドル名義で記述される事例が多いようです。[※3]

そのコンドルさん。1852 年にイングランド・ロンドンに、銀行員の父を持つ家庭に生まれるも少年時代に父を亡くし、母の献身的な支えの下で成長し、南ケンジントン美術学校とロンドンユニバーシティカレッジを卒業、建築家ロジャー・スミスとウィリアム・バージェスに師事しました。1876 年に 24 歳の若さで、英国建築家協会 (RIBA) 主催の設計競技会で最優秀賞にあたるソーン賞を受賞、一躍、新進気鋭の建築家として世に出ることとなりました。折しも、洋風建築技術者の招聘を企図していた明治政府の高官の目に留まり、明治 10 年（1877）、工部大学校（後に帝国大学工科大学、現在の東京大学工学部）で建築学を講ずるために来日しました。長期に及ぶ汽船の旅を経て横浜港に降り立ち、明治 5 年（1872）に開通したばかりの汽車で東京（新橋）へとやってきました。[※4]

史跡・旧停車場跡 0（ゼロマイル）哩標識
（再現建築）

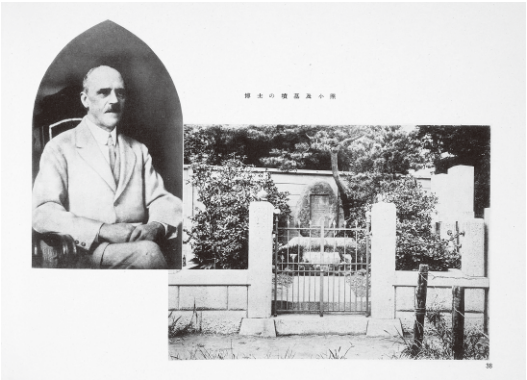


ジョサイア･コンドル銅像
（東京大学工学部）

多芸多才、和魂洋才の人

コンドルは、自身と同世代の若き研究者達を、時に親身に、時に厳しく指導し、曽根達蔵や片山東熊、辰野金吾ら、後に建築界の重鎮となる人々がコンドル門下から輩出されてゆきました。

ところで、開国直後で欧米諸国に対して情報の少なかった日本人の風俗や習慣を、欧米人自身が観察、考察すべく研究会が結成されました。現在も継続する日本アジア協会の例会で発表された中には、後に学術研究書として刊行されたものも少なくはありません。[※5] コンドルも会員の一人として活発な研究報告を行っています。コンドルは湯島に暮らした狩野派の絵師、河鍋暁斎に師事し、暁英の画号で日本画を描いています。[※6] また和服姿で、妻く



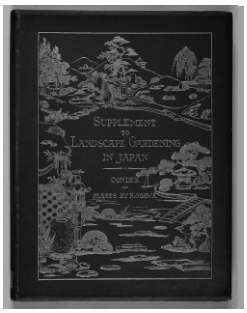
コンドル博士記念表彰会編集　1931『コンドル博士遺作集』
（当館所蔵）所収のコンドル肖像と護国寺内墓所

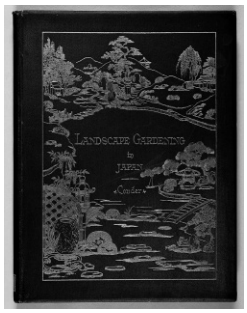
めと日本舞踊を舞う写真なども遺されています。コンドルの研究成果として現在、知られているものとして、日本庭園[※7]や華道[※8]、そして服飾史に関わる研究を公にしています。西洋人として近代建築技術、つまり洋才を日本人に伝授する一方、日本の伝統文化に対する並々ならぬ興味や関心、すなわち、和魂を抱いていたことが理解されるのです。[※9]

コンドル散歩　お庭を拝見

コンドルは帝国大学を退官後、三菱財閥を興した岩崎家のお抱え技師として“一丁ロンドン”と呼ばれた丸の内の三菱合資会社の社屋や岩崎家の私邸の設計に携わりました。現在、湯島（池之端）の岩崎家本邸や三重県桑名市の諸戸邸などが遺されています。先述した庭園や華道研究は、和洋折衷形式の多いコンドル設計の建築との関係性を考える上で、貴重な成果と言えます。つまり庭園研究と、その構成要素の花卉や植生の一環としての華道について考察するという事は、コンドルが人の住まう建物を、ただ単に“ハコ”としてのみ位置づけていたのでなく、建築と庭園、植栽とが三位一体となって機能すべき事を認識していた証左と言えるのです。

当時のコンドルにまつわる逸話が知られています（以下、抜粋）。「そのころ、英国人でコンデルって人がいまして、西洋式の建築の指導をしたらしい。岩崎家とか島津邸、そういうお屋敷をみんなやっていますが、その人がコンデル協会ってのをつくって、これが会員制ですが、父はその会員になって水道工事の仕事をしていました。神戸にミカドホテルっていうのがあったんですが、そこの社長に可愛がってもらって、室内暖房とかバスルームとか、当時、日本の普通の家には見かけないようなものの工事をやっていたんです。」[※10]





ジョサイア・コンドル著 1893『ランドスケープ・ガーデニング・イン・ジャパン（本文篇・図版篇表紙）』博文社（当館所蔵）より

夏目漱石、岩崎邸を語る

ところで岩崎家本邸に関して夏目漱石は、短編小説『野分』で主人公に語らせています。曰く「岩崎の塀が冷刻に聳えている。あの塀へ頭をぶつけて壊してやろうかと思う。[※11]」と。

成立事情から、他藩とは比較にならない程に、藩内の階級差別の厳しかった土佐藩の家臣団の中でも、“地下（じげ）浪人”と呼ばれた最下層の士分階級出身ながら、岩崎彌太郎は経済観念と経営感覚とに優れ、幕末の土佐藩の会計を一手に担い、明治維新後は、土佐商会から九十九商会を経て、後に三菱財閥となる合資会社を創立しました。まさに一代で立身出世を成し遂げた立志伝中の人物といえるでしょう。[※12]

しかしその一方で、新興富裕層に対する反感、“ご一新”を否定的に捉える夏目漱石にとっては、唾棄（だき）すべき対象と認識されていた事も事実です。その夏目ですが、実は建築に造詣が深く、珠玉の小説群中で随所に、その片鱗を伺わせる記述が多い事が知られています。随筆では、大学入学後に専攻科目を選択する際に、職業として芸術分野を志望するも、長兄から実業を選ぶ様に諭されて、やむなく英文学の道に進んだと言います。歴史に“もし”はありませんが万が一、夏目が帝国大学で建築学を学び、コンドルに師事していたならば。そう思うと、どんな建築家になり、どんな建物を設計したのだろうか。そんな楽しい想像が頭の中をよぎります。

令和２年（2020）６月 21 日、文京ゆかりの文化人の一人ジョサイア・コンドルの没後 100 年を迎えました。

コンドルは逝去後、同年の６月 10 日に亡くなった妻くめと共に大塚の護国寺墓地に弔られました。

当館では今後、様々な事業を通じてコンドルの知られざる日本庭園研究資料や、コンドルと岩崎家との関わりも紹介してゆく予定です。ご来館をお待ちしております。

（加藤元信）

註
※１　加藤元信編　2009 『実録！「漫画少年誌」－昭和の名編集者・加藤謙一伝』文京ふるさと歴史館、加藤元信編　2011 『洪庵、知安、そして鷗外―文京ゆかりのヒポクラテスたち』文京ふるさと歴史館、加藤元信編　2016 『文京むかしむかし　考古学的な思い出』文京ふるさと歴史館
※２　梅渓昇　2007 『お雇い外国人　明治日本の脇役たち』講談社学術文庫、村松貞次郎編著　1976 『お雇い外国人 15　建築・土木』鹿島出版会
※３　石田繁之助　2012 『ジョサイア・コンドルの網町三井倶楽部』相模書房、永野芳宣　2006 『物語ジョサイア・コンドル　丸の内赤レンガ街をつくった男』中央公論新社、畠山けんじ　1998 『鹿鳴館を創った男　お雇い建築家ジョサイア・コンドルの生涯』河出書房新社、村松貞次郎　1985 「余録６　コンドル先生のこと」『国史大辞典　第６巻史窓』吉川弘文館
※４　斉藤進　2014 『シリーズ遺跡を学ぶ 96　鉄道考古学事始』新泉社、福田敏一　2004 『新橋駅発掘　考古学からみた近代』雄山閣、福田敏一　2004 『新橋駅の考古学』雄山閣
※５　秋山勇造　2004 「日本アジア協会と協会の紀要について」『人文研究』第 152 号　神奈川大学人文学会
※６　飯島虚心著・河鍋楠美監修・吉田漱解説　1984 『日本芸術名著撰３　河鍋暁斎翁伝』ぺりかん社、ジョサイア・コンドル著・山口静一訳　2006 『河鍋暁斎』岩波文庫、藤森照信・鈴木博之監修　1991 『ＩＮＡＸブックレットＶ vol.10 №２、鹿鳴館の夢　建築家コンドルと絵師暁英』ＩＮＡＸ
※７　ジョサイア・コンドル著、藤森照信解説　2002 『Landscape gardening in Japan』講談社インターナショナル
※８　ジョサイア・コンドル著、工藤恭子訳　1999 『美しい日本のいけばな』講談社
※９　平川祐弘　1987 『和魂洋才の系譜　内と外からの明治日本』河出書房新社
※ 10　厚田雄春・蓮實重彦　1989 『小津安二郎物語』筑摩書房
※ 11　夏目漱石　2016 『二百十日・野分』岩波文庫改定第一版
※ 12　入交好脩　1960 『人物叢書　岩崎弥太郎』吉川弘文館

江戸切絵図の書込み

資料の集まるまで

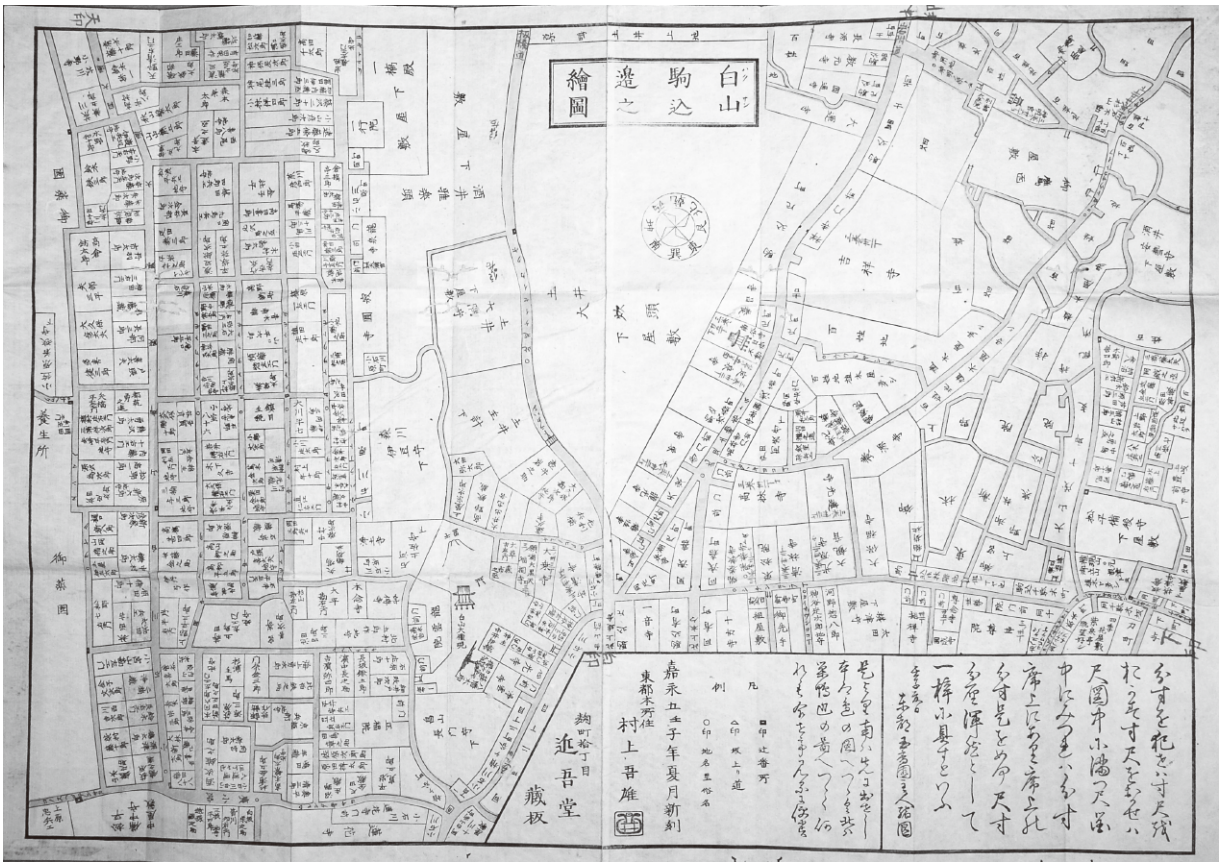
文京ふるさと歴史館には、文京区にまつわる様々な資料が収蔵されています。その収集方法は、大きく二種類に分けられます。一つ目は寄贈で、資料の所有者から寄せられる場合、二つ目は購入で、古書店などから買う場合です。寄贈された資料は、誰にどのように使われ、現在まで伝わってきたのかなど、寄贈者から詳しい話を聞くことができます。一方、購入した資料は元の持ち主が不明で、その来歴もよくわからないものが大半です。ただその中にも、元の持ち主はわからないながら、その痕跡をたどることのできる資料もあります。その一つが、「白山駒込辺之絵図」という一枚の江戸切絵図です。

江戸切絵図とは

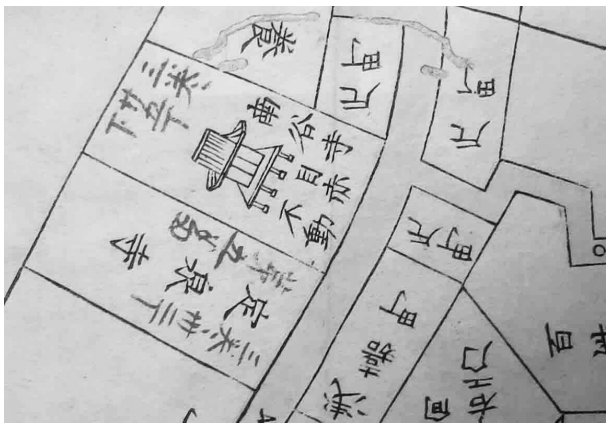
江戸切絵図は、主に江戸を三十以上の地域に分けて作成された地図のことです。江戸を地域ごとに分けることによって、外出時などに必要な切絵図だけを携帯できるものです。江戸切絵図の版元は、近吾堂と尾張屋が知られています。近吾堂は弘化三年（1846）、尾張屋は嘉永二年（1849）から、切絵図刊行を始めます。近吾堂が、黒と水色、黄色、灰色の淡い色合いの四色刷が特徴なのに対し、尾張屋は、黒と赤、青、黄色、緑など鮮やかな色合いの五色刷です。

切絵図の書込み

先述の「白山駒込辺之絵図」（【図１】）は、近吾堂が発行したものです。嘉永五年の発行、大きさは 44.5 × 63.5cm で、道の部分は薄い黄色になっています。切絵図は印刷されたものなので、本来ならばどれも同じです。しかし、当館所蔵の「白山駒込辺之絵図」には、赤い文字の書込みがあります。おそらく元の持ち主の誰かが、書き込んだものでしょう。その文字をよく見ると、「三巻廿六丁」「三ノ卅一丁」「三巻卅一丁オ」などと書き込まれています。この文字の意味は、「三巻」は本の巻数で、「三ノ」とある「三」も同じく巻数だと考えられます。「廿五丁」「卅一丁」という数字が示しているのは、ページ数です。江戸時代の本は、現在のようには数えていませんでした。ページ数の単位には、「丁」という単位が使われていました。数え方もページ数とは違っていて、1 ページ目を「一丁表」、2 ページ目を「一丁裏」、3 ページ目を「二丁表」、4 ページ目を「二丁裏」と数えました。この方法だと、丁数はページ数の半分になります。「白山駒込辺之絵図」の書込みの中には、「三巻卅二丁オ」「三巻卅二丁



【図1】白山駒込辺之絵図



【図2】

ウ」という文字もあります。これは、三巻の三十二丁表、三巻三十二丁裏を表していると考えられます。そのため、「白山駒込辺之絵図」の書込みは、本の巻数と丁数であると予想できます。その本とはなんでしょうか。

書込みの正体

【表】に「白山駒込辺之絵図」にある書き込まれた場所と書込みの内容をまとめました。書き込まれた場所は、寺院や神社でした（「白山駒込辺之絵図」には、寺院や神社以外に武家屋敷もあります）。書込みを見ると、巻数のないこともありますが、巻数がある場合は三巻になっています。丁数は、二十五丁から三十三丁になっています。切絵図に書かれた文字から、探す本の条件を考えると切絵図の表題に「白山駒込辺之絵図」とあるので、この地域の寺院や神社について書かれ、さらに三巻目にこの地域が出ているということになります。この条件に当てはまる本としては、『新撰江戸砂子』と『再校江戸砂子』が考えられます。

『新撰江戸砂子』は、享保十七年（1732）に刊行された地誌で、菊岡沾凉によって書かれました。『新撰江戸砂子』を増補した『再校江戸砂子』は、明和九年（1772）に刊行されました。『新撰江戸砂子』と『再校江戸砂子』の三巻は共に、「白山駒込辺之絵図」の地域を扱っています。【表】にある寺社と二書の丁数を比較すると、『再校江戸砂子』は、『新撰江戸砂子』を増補したため、丁数が多くなっています。比べてみると『新撰江戸砂子』は【表】にある寺社が違う丁にあり、丁数が合うのは、『再校江戸砂子』です。

「白山駒込辺之絵図」に見る『再校江戸砂子』

『再校江戸砂子』では、「白山駒込辺之絵図」に丁数の書込みのある寺社について、どのようなことが書かれているのでしょうか。

書込みのある寺社は、『再校江戸砂子』巻之三の「駒込染井　西ヶ原　田畑　平塚　王子」という部分に該当し、

【表】

寺院名	書込みの内容
専念寺	廿五丁
南谷寺	三巻廿五丁下
杉山石不動	三巻廿五丁下
神明宮	三巻廿六丁
世尊院	三ノ卅丁
総禅寺	卅一丁
高林寺	三巻卅一丁オ
吉祥寺	三巻卅一丁オ
妙清寺	三巻卅一丁ウ
清林寺	三巻卅二丁
蓮光寺	三巻卅二丁オ
常徳寺	三卅二丁
天栄寺	三巻卅二丁オ
定泉寺	三巻卅二丁第五番
光源寺大観音	三巻卅二丁ウ
瑞泰寺（瑞泰教寺）	三巻卅二丁ウ
福相寺	三卅三丁オ
大乗寺	三ノ卅三丁ウ

その中で【表】にある寺社も紹介されています。目赤不動について、「白山駒込辺之絵図」と『再校江戸砂子』に書かれている部分を比較します。【図２】にあるように「白山駒込辺之絵図」には南谷寺目赤不動と並記されていますが、『再校江戸砂子』では目赤不動と最初に書かれています。

○目赤不動堂　大聖山南谷寺　天台上野末　駒込

当時本尊は伊州赤目山第二世万行和尚廻国の時、いづくの誰ともしらず来りて、尊像をさづけたり。其後当国駒込村の動坂に草菴をむすびて不動尊を建立し、かのさづかりし像を胸中におさめて赤目不動と号ス。しかるに寛永の頃、御鷹野の節御成ありて、堂地を今の所にくだし給ひ、赤目を云を目黒・目白にたいして目赤とよぶべしとの鈞命ありて目赤といふ也。

『再校江戸砂子』には、本尊の名前が最初にあり、その後に寺号や寺の由来について詳しく書かれています。これは南谷寺が、目赤不動で知られていたためかもしれません。他にも、「白山駒込辺之絵図」に丁数の書かれた寺社で、『再校江戸砂子』に由来の書かれた寺社があります。「白山駒込辺之絵図」で場所を確認し、『再校江戸砂子』で、その詳しい由来を知ることができます。この切絵図の旧蔵者は『再校江戸砂子』の文章を読みながら、切絵図を眺めたり、あるいは実際に歩いてみたのかもしれません。

（齊藤　智美）

参考文献
飯田龍一・俵元昭『江戸図の歴史』　1988 年　築地書館
小池章太郎編『江戸砂子』1976 年　東京堂出版

令和元年度 収蔵品展の報告

令和元年度収蔵品展では、「江戸屋敷に暮らした家臣武士の家系図２」と題して、福山藩阿部家の家臣として丸山屋敷（現、西片）に住んだ、山岡治左衛門家の資料を紹介しました。山岡治左衛門家資料は、平成 26 年に、山岡家から寄贈を受けた資料で、文書資料を中心に約 500 点の資料があります。今回の展示では、その中から厳選した資料 23 点を展示しました。※1

歴史館入口前

山岡家は、戦国時代には近江国栗太郡瀬田（現、滋賀県大津市）を中心に活躍した在地豪族の一族であり、江戸時代初頭に阿部家に仕えるようになりました。一族には、幕臣として徳川家に仕えた家や、越前松平家、京極家などに仕えた家などもありました。阿部家の家中にも、治左衛門家の他に、分家筋にあたる山岡源左衛門家があり、共に阿部家を支えていました。今回の収蔵品展では、福山藩の要職を勤めた山岡家に伝えられた資料から、阿部家における仕事のマニュアルや帳面、藩主阿部正弘の書いた書状や掛け軸など、さまざまな資料を紹介しました。

展示風景

山岡治左衛門家は、阿部家中では「殉死の家」と称され、家督相続上での特権を認められた家でした。※2 幕末に治左衛門家の当主となった山岡次道は、阿部正寧、正弘、正教、正方、正桓と５代の藩主に仕え、藩の年寄（家老職）として活躍しました。なかでも、阿部正教から次道に宛てて、「天下之擾乱」を防ぐためにと品川東禅寺でのイギリス公使警護の心得を説いた書状は、会期前に新聞で取り上げられるなど、多くの注目を集めました。

次道の実兄で、山岡源左衛門家の当主となった八十郎次功は、老中を勤めた阿部正弘の開国政策に反対して自害し、現在もその墓石が昌清寺（本郷一）に残されています。展示では、弟の次道に宛てた八十郎の遺言や、八十郎を称える詩を詠んだ維新志士久坂玄瑞の著書『興風集』なども展示しました。

この他にも、福山藩の丸山屋敷が、文京ゆかりの作家森鷗外の史伝小説の舞台として度々登場することから、鷗外作「北條霞亭」の載った雑誌『帝国文学』24 巻７号（大正７年７月）や、史伝小説に登場する菅茶山や小島成斎の資料も展示しました。

写真を撮る来館者

今回の収蔵品展は、令和２年２月８日から３月 15 日の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として、会期末より２週間早い３月１日を最後に臨時休館となってしまいました。期間中の来館者は 1,573 人、中には展示資料を熱心に、１点づつ写真に収めている方もお見掛けしました。アンケートには、「山岡景猶の子孫を調べていたので良かった」、「山岡八十郎を調べていたので参考になった」などの声が寄せられるなど、思わぬ反響がありました。令和２年の大河ドラマ『麒麟がくる』では、織田信長の武将として山岡家とも関わりの深い明智光秀が取り上げられていることも、一因であったかもしれません。

実は、チラシには「知られざる山岡家の系譜」というコメントを入れていましたが、アンケートの結果から、かえって担当者が山岡家の知名度の高さに驚くことになりました。

当館の山岡家資料展は志半ばで終了しましたが、今年５月には滋賀県大津市の石山寺で、山岡家の系図の写しが発見されるなど、山岡氏に関する関心が高まっています。※3

（加藤芳典）

＊１　展示資料は館蔵資料を含めて 29 点。
＊２　殉死の家とは、三代将軍徳川家光に殉死した阿部重次に殉死した山岡主馬の功績によるもので、阿部家中に４軒あった。幼年であっても俸給を減らさずに家督相続することなどの特権が認められていた。
＊３　2020 年５月 29 日付京都新聞など。ただし発見されたのは栗東市歴史博物館寄託「山岡氏舎系図」の写しと思われる。

令和元年度のあゆみ

文京区企画展

「大河ドラマ「いだてん」主人公・金栗四三青春の地」
◆4月13日(土)～5月12日(日)　入館者数……2,210人

小・中学生のための歴史教室

「わがはい君宝さがし－歴史館でお宝をさがそう!－」
◆7月20日(土)～9月1日(日)　参加者数……346人

特別展

「ぶんきょう写真帖－時を感じる－」
◆10月26日(土)～12月8日(日)(延べ38日間)　入館者数……4,138人
◆記念講演会
11月17日(日)　会場：文京区民センター　参加者数……64人
「写真帖『東京帝国大学』と写真師 小川一眞」／岡塚章子氏(東京都江戸東京博物館都市歴史研究室長)
◆展示解説11月2日(土)、11月21日(木)

収蔵品展

「江戸屋敷に暮らした家臣　武士の家系図2」
◆2月8日(土)～3月1日(日)(延べ20日間)　入館者数……1,573人
◆展示解説　2月16日(日)

文の京ゆかりの文化人顕彰事業

◆朗読コンテスト
応募総数216人
本選10月20日(日)　会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール
課題作家：泉鏡花、内田百閒、江戸川乱歩、永井荷風、萩原朔太郎、室生犀星
参加者……16人・観覧者数……179人
◆歴史講演会「秋聲・鏡花・犀星－金沢三文豪と文京－」
／大木志門氏(山梨大学准教授)・徳田章子氏(秋聲令孫・徳田秋聲記念館名誉館長)
10月19日(土)　会場：文京区男女平等センター　参加者数……95人
◆史跡めぐり「金沢ゆかりの文豪の足跡をたどる～湯島から本郷へ～」
10月9日(水)　参加者数……30人

ミニ企画

◆3月27日(水)～6月23日(日)「本郷から世界へ　留学生の手紙」
◆6月26日(水)～9月23日(月・祝)　「本日開業－ぶんきょうの広告－」
◆9月26日(木)～12月25日(水)　「団子坂の菊人形－新収蔵資料公開「引札の版木」－」
◆1月5日(日)～3月1日(日)「文の京五輪外伝」

史跡めぐり

◆第1回　6月12日(水)　神田上水をたどる2(小石川編) 参加者数……44人
◆第2回　11月29日(金)　古写真がつなぐ街の記憶 －明治から令和まで－
参加者数……24人

ワークショップ

「あなたの名所ものがたり　町会・自治会編」
◆第1回　あなたの名所ものがたり　根津・弥生編　10月27日(日)
参加者数……3人
◆第2回　あなたの名所ものがたり　汐見編　11月16日(土)
参加者数……5人

＊新型コロナウイルスの流行に伴い、3月3日(火)～3月31日(火)の事業は中止

歴史教室

特別展

収蔵品展

歴史講演会

ミニ企画

第1回史跡めぐり

令和２年度の催し

※それぞれの事業の開催日時や募集方法等は、歴史館ホームページおよび「区報ぶんきょう」にて、お知らせします。

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、展示及び事業の日程及び内容に変更・中止が生じる場合があります。
最新情報は歴史館ホームページでお知らせします。
ホームページ：https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/

夏休み歴史教室
わがはい君　シルエットクイズ
7月30日（木）～8月23日（日）
シルエットで隠された、館内の展示物を探す企画です。事前申込不要、参加者には記念品を贈呈。

特別展
コンドルさんと岩崎家四代 ー碧い瞳の和魂と洋才ー（仮）
令和3年1月30日（土）～3月14日（日）
近代建築技術の指導者として知られるジョサイア・コンドルの知られざる日本庭園文化研究と、パトロンとなった岩崎家との交わりを紹介します。

史跡めぐり
歴史館友の会まち案内ボランティアが、区内の史跡等をご案内します。
年2回程度開催予定。要申込（往復はがきにて）。
参加費　保険40円程度・入館料等実費。

レファレンス【現在休止中】
毎月第2・4木曜日13時30分から16時30分まで、館内1階レファレンスコーナーにて、ご質問にお答えします。

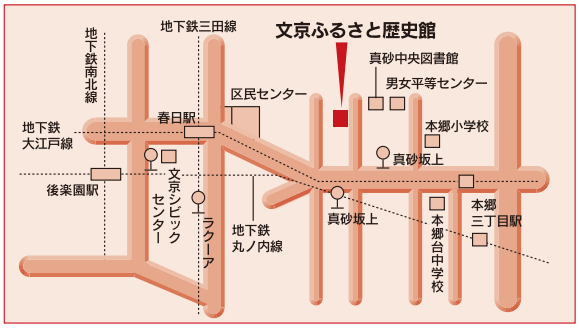
文化人顕彰事業　朗読コンテスト
本選11月15日（日）13時～16時
会場　跡見学園女子大学ブロッサムホール
文京ゆかりの作家の作品を朗読。芥川龍之介『羅生門』、川端康成『伊豆の踊子』、志賀直哉『小僧の神様』、太宰治『走れメロス』、中島敦『山月記』、宮沢賢治『銀河鉄道の夜』。コンテスト形式で優秀者を選び表彰します。
※参加者・観覧者募集の方法等は、ホームページなどでお知らせします。

文化人顕彰事業　歴史講演会
没後百年を迎えた文京ゆかりの文化人・嘉納治五郎を顕彰し、講演会を開催します。
日時：未定
会場：未定
講師：未定
※詳細は決まり次第、ホームページなどでお知らせします。

常設展示ボランティアガイド【現在休止中】
ふるさと歴史館ボランティアガイドが、毎週土・日曜日、13時から17時まで常設展示の解説を行います（申込不要・無料）。上記日時以外のご希望も受付けています。3週間前までに、文京ふるさと歴史館へ電話連絡し、申請書を提出してください。

利用のご案内

◆開館時間：午前10時から午後5時まで
◆休 館 日：月曜日・第4火曜日（休日にあたるときは翌日）
くんじょう期間、年末年始
◆入 館 料：一般個人100円、団体（20人以上）70円
中学生以下・65歳以上無料
＊特別展は別に定めます
◆交　　通：東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線「本郷三丁目」から徒歩5分
都営三田線・大江戸線「春日」から徒歩5分
都営バス 都02 上69「真砂坂上」から徒歩1分
文京区コミュニティバスBーぐる「文京シビックセンター」または「ラクーア」から徒歩10分



文京ふるさと歴史館

◆ホームページ：https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/　〒113-0033　東京都文京区本郷四丁目9番29号　電話(03)3818-7221

印刷物番号 D0120006